

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業区分 重点

事業名	公共交通バリアフリー化促進		
所管課	交通計画課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 平成12年度の「交通バリアフリー法」の施行を受け、平成14年3月に「福岡市交通バリアフリー基本方針」の策定を行い、この中で特定旅客施設(1日あたりの利用者数5,000人以上)のうち、優先的に整備が必要な鉄道駅(主要交通結節点)やバス車両等の公共交通のバリアフリー化整備について方針を定めたもの。
開始年度	平成14年度		
根拠法令	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律		
行政計画	福岡市バリアフリー基本計画		

基本計画			
施策コード	主	1-1-1	
	再		
分野別目標	一人ひとりが心豊かに暮らし、元気に輝いている		
施策	ユニバーサルデザインの理念によるまちづくり		
事業群	ユニバーサル都市・福岡の推進		
施策成果指標	ノンステップバスの導入率 H27n(現状): 22.7%⇒R2n: 70%		
	鉄道駅のバリアフリー化率 (1日平均利用者3,000人以上)		
	H27n(現状): 98%⇒R2n: 100%		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 公共交通機関(鉄道、バス、タクシー)
	対象をどのような状態にしたいのか 安全且つ円滑な公共交通の利用ができるよう、ノンステップバス・UDタクシーの導入や駅のエレベーター設置等に補助を行い、バリアフリー化の促進を図る
事業目的	

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 公共交通施設のバリアフリー化の促進に向け、交通事業者に対し要請を行うとともに、補助金を交付
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノンステップバス導入促進【見込み: 46台(うち補助43台)】 ・ 鉄道駅のバリアフリー化【1駅(香椎花園駅)】
	(○R1nよりUDタクシー導入補助開始(R2nまで)) R1n導入目標 200台 R1n導入見込み 129台 ※基本計画施策成果指標なし

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計		51,734
歳入	特定財源	0
	一般財源	51,734
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30
	R2	
歳出合計	29,418	60,985
歳入	特定財源	0
	一般財源	29,418
	60,985	

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																																			
	○交通事業者に対し、バリアフリー化促進の要請 ○交通事業者に対し、バリアフリー化の補助	○公共交通施設のバリアフリー化が進む	○鉄道駅のバリアフリー化100%(R1n) (1日平均利用者3,000人以上) ○ノンステップバスの導入 43%(R2n) (○UDタクシーの導入 12%(R2n))	○全ての公共交通施設がバリアフリー化される																																																																																			
	活動の指標	成果の指標(KPI)																																																																																					
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">鉄道駅のバリアフリー化補助 (駅/年度毎)</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td></td> <td style="text-align: center;">R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ノンステップバスの導入補助 (台/年度毎)</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">63</td> <td style="text-align: center;">58</td> <td></td> <td style="text-align: center;">R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">63</td> <td style="text-align: center;">43</td> <td style="text-align: center;">37</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td style="text-align: center;">74.1%</td> <td></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	鉄道駅のバリアフリー化補助 (駅/年度毎)	目標	0	1		R 年度	実績	0	1	0		達成率	-	100.0%		-	ノンステップバスの導入補助 (台/年度毎)	目標	63	58		R 年度	実績	63	43	37		達成率	100.0%	74.1%		-	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">鉄道駅のバリアフリー化率 (1日平均利用者3,000人以上)</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">100.0</td> <td style="text-align: center;">100.0</td> <td></td> <td style="text-align: center;">R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">98.0</td> <td style="text-align: center;">100.0</td> <td style="text-align: center;">100.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">98.0%</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ノンステップバスの導入率</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">70.0</td> <td style="text-align: center;">70.0</td> <td></td> <td style="text-align: center;">R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">36.9</td> <td style="text-align: center;">39.1</td> <td style="text-align: center;">42.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">52.7%</td> <td style="text-align: center;">55.9%</td> <td></td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	鉄道駅のバリアフリー化率 (1日平均利用者3,000人以上)	目標	100.0	100.0		R 年度	実績	98.0	100.0	100.0		達成率	98.0%	100.0%		-	ノンステップバスの導入率	目標	70.0	70.0		R 年度	実績	36.9	39.1	42.6		達成率	52.7%	55.9%		-	
指標の内容	年度			実績		目標																																																																																	
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																																		
鉄道駅のバリアフリー化補助 (駅/年度毎)	目標	0	1		R 年度																																																																																		
	実績	0	1	0																																																																																			
	達成率	-	100.0%		-																																																																																		
ノンステップバスの導入補助 (台/年度毎)	目標	63	58		R 年度																																																																																		
	実績	63	43	37																																																																																			
	達成率	100.0%	74.1%		-																																																																																		
指標の内容	年度	実績		目標																																																																																			
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																																		
鉄道駅のバリアフリー化率 (1日平均利用者3,000人以上)	目標	100.0	100.0		R 年度																																																																																		
	実績	98.0	100.0	100.0																																																																																			
	達成率	98.0%	100.0%		-																																																																																		
ノンステップバスの導入率	目標	70.0	70.0		R 年度																																																																																		
	実績	36.9	39.1	42.6																																																																																			
	達成率	52.7%	55.9%		-																																																																																		

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

	事業区分	重点	
事業名	七隈線沿線のまちづくり推進(橋本駅周辺地区)		
所管課	地域計画課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成25年度		地下鉄七隈線の整備を契機として、良好な市街地形成や新たな拠点の形成を図るため。
根拠法令	都市計画法・土地区画整理法		
行政計画	なし		
事業コード	主 再		4-4-1
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		施策成果指標
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり		
事業群	計画的な市街地整備の推進		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 地下鉄七隈線地域(橋本駅周辺)	実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○地域主体のまちづくり支援等 ●(仮称)橋本駅前土地区画整理準備組合への支援 ・関係機関との調整により、公共施設等の整備について基本的な協議を整え、併せて土地区画整理組合への助成決定を行った。 ・準備組合委員会開催への支援及び出席を行うとともに、地元との計画策定協議や、関係機関との調整により、都市計画決定及び組合設立認可に至った。 ●(仮称)橋本駅南土地区画整理準備組合への支援 ・事業化に向けた関係機関との協議調整 ・準備組合委員会開催への支援及び出席 [予算額] 185千円(事務費)	事業費(千円)	令和元年度決算額(見込額) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">歳出合計</td> <td style="text-align: right;">124</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">歳入 特定財源</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">歳入 一般財源</td> <td style="text-align: right;">124</td> </tr> </table>	歳出合計	124	歳入 特定財源	0	歳入 一般財源	124				
歳出合計	124														
歳入 特定財源	0														
歳入 一般財源	124														
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 橋本駅周辺を中心に総合交通体系の確立及び交通結節機能の強化を図り、商業・サービス機能などが集積した魅力と賑わいのある市民生活の核となる拠点形成を実現する。		前年度決算額・翌年度予算額 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H30</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">歳出合計</td> <td style="text-align: right;">195</td> <td style="text-align: right;">175</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">歳入 特定財源</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">歳入 一般財源</td> <td style="text-align: right;">195</td> <td style="text-align: right;">175</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H30	R2	歳出合計	195	175	歳入 特定財源	0	0	歳入 一般財源	195	175
年度	H30	R2													
歳出合計	195	175													
歳入 特定財源	0	0													
歳入 一般財源	195	175													

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) 地域住民が行うまちづくり活動(土地区画整理事業等)について、以下のような誘導支援を行う。 ・組合等への技術的支援(地権者意向を反映した土地利用案作成の支援)(事業計画案作成の支援) ・事業化に向けた関係機関との協議調整 ・工事着手に向けた関係機関との協議調整 ・組合への財政的支援	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) ・まちづくり活動に対する住民の理解度が深まり、事業への仮同意が得られる。 ・計画的な助成や関連事業との調整により、土地区画整理事業が円滑に進捗する。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) ・橋本駅を中心に商業・サービス機能及び交流機能が集積し、魅力と賑わいを創出する地域の新しい拠点となるまちが形成される。 ・交通結節機能の強化、駅周辺の整備により、地下鉄利用者が増加するとともに利便性も向上する。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) ・商業、業務機能の集積や定住人口の増加による地下鉄七隈線の乗車人員増が見込める。 ・定住人口の増加による税収(固定資産税、都市計画税等)が見込める。 ・総合交通体系が確立し、鉄道駅を中心としたコンパクトで良好な市街地が形成される。																																																																																		
活動の指標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">橋本駅周辺の土地区画整理事業立ち上げ件数</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td></td> <td style="text-align: center;">R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">0.0%</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td></td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">橋本駅前土地区画整理事業の進捗率(%) (事業費ベース)</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td></td> <td style="text-align: center;">R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">16.4%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td></td> <td style="text-align: center;">100%</td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	橋本駅周辺の土地区画整理事業立ち上げ件数	目標	1	1		R6年度	実績	0	1	-		達成率	0.0%	100.0%		2	橋本駅前土地区画整理事業の進捗率(%) (事業費ベース)	目標	-	-		R6年度	実績	-	-	16.4%		達成率	-	-		100%	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">地下鉄七隈線の乗車人員 (1日当たり) R1年度以降は、H31.2策定の地下鉄経営戦略より</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">78,670</td> <td style="text-align: center;">95,800</td> <td></td> <td style="text-align: center;">R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">91,287</td> <td style="text-align: center;">95,677</td> <td style="text-align: center;">98,707</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">116.0%</td> <td style="text-align: center;">99.9%</td> <td></td> <td style="text-align: center;">151,168</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">橋本駅前土地区画整理事業区域内の宅地の利用面積</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td></td> <td style="text-align: center;">R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">1.0ha</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td></td> <td style="text-align: center;">4.4ha</td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	地下鉄七隈線の乗車人員 (1日当たり) R1年度以降は、H31.2策定の地下鉄経営戦略より	目標	78,670	95,800		R6年度	実績	91,287	95,677	98,707		達成率	116.0%	99.9%		151,168	橋本駅前土地区画整理事業区域内の宅地の利用面積	目標	-	-		R6年度	実績	-	-	1.0ha		達成率	-	-		4.4ha
指標の内容	年度			実績		目標																																																																																
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																																	
橋本駅周辺の土地区画整理事業立ち上げ件数	目標	1	1		R6年度																																																																																	
	実績	0	1	-																																																																																		
	達成率	0.0%	100.0%		2																																																																																	
橋本駅前土地区画整理事業の進捗率(%) (事業費ベース)	目標	-	-		R6年度																																																																																	
	実績	-	-	16.4%																																																																																		
	達成率	-	-		100%																																																																																	
指標の内容	年度	実績		目標																																																																																		
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																																	
地下鉄七隈線の乗車人員 (1日当たり) R1年度以降は、H31.2策定の地下鉄経営戦略より	目標	78,670	95,800		R6年度																																																																																	
	実績	91,287	95,677	98,707																																																																																		
	達成率	116.0%	99.9%		151,168																																																																																	
橋本駅前土地区画整理事業区域内の宅地の利用面積	目標	-	-		R6年度																																																																																	
	実績	-	-	1.0ha																																																																																		
	達成率	-	-		4.4ha																																																																																	

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業区分	重点
------	----

事業名	青果市場、箕子小学校、冷泉小学校跡地活用の検討		
所管課	住宅都市局地域まちづくり推進部跡地計画課 (青果市場・箕子小) まちづくり推進室(冷泉小)	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度			敷地規模や立地環境など都市計画的な観点から、総合的な検討が必要となる跡地について、早期跡地活用に向けた検討を推進する必要があったため
根拠法令			
行政計画			

基本計画			
施策コード	主	4-4-1	
	再		
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり		
事業群	計画的な市街地整備の推進		
施策成果指標	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	青果市場跡地、箕子小学校跡地、冷泉小学校跡地
	対象をどのような状態にしたいのか	土地を所管する部局と連携し、敷地規模や立地環境を踏まえ、地域や福岡市の魅力向上に資する跡地活用の早期実現を図る
事業目的		

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	○青果市場跡地 地域の代表や学識経験者等で構成する「青果市場跡地まちづくり構想委員会」を設置し、民間アイデアも参考にしながら意見を聞き、「青果市場跡地まちづくり構想」を策定(H29.9)。構想を踏まえ、事業者公募開始(H30.1)、事業者選定(H30.7)、土地建物売買契約締結(H30.12)、引渡し(H31.3)。提案を踏まえ、事業者や地域・関係機関等との協議・調整を実施、R2.3地区計画決定。
	○箕子小学校跡地 地域の代表や学識経験者などで構成する「箕子小学校跡地活用会議」を設置し、民間アイデアも参考にしながら意見を聞き、「箕子小学校跡地活用方針」を策定(H30.11)。方針を踏まえ、貸付による事業者公募開始(H31.3)、優先交渉権者決定(R1.9)。提案を踏まえ、事業者や地域・関係機関等との協議・調整を実施、R2.3事業契約を締結。
	○冷泉小学校跡地 当初は、跡地の与条件などを整理したうえで民間事業者に対しアイデア公募を行い、その後、活用方針をまとめ「冷泉小学校跡地活用協議会」での意見を伺うこととしていた。 今回、石積み遺構が発見されたことをうけ、その取扱いや保存方法等によっては、跡地活用に重大な影響を及ぼすことから、跡地における発掘調査がすべて完了する令和2年度末までは、アイデア公募や跡地活用協議会の開催を見合わせることにした。

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
歳出合計		4,600	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	4,600	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳出合計	10,508	7,467	
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	10,508	7,467

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	土地を所管する部局と連携し、敷地規模や立地環境を踏まえ、地域や福岡市の魅力向上に資する跡地活用を図る。事業者決定後は、提案を踏まえ事業者及び地域や関係機関等との調整を行う。	跡地活用の方向性(跡地活用方針など)をとりまとめ、跡地活用に向けた取り組み(事業者公募など)が定まる。	事業主体により、敷地規模や立地環境を生かし地域の活性化に資する機能の導入や、魅力ある都市空間の創出による、良好な市街地環境形成が図られることで、地域や福岡市の魅力が向上する。	・地域の課題を踏まえた跡地活用による地域の活性化 ・新たな機能導入による雇用の場の創出や ・税金増 ・公有地の運用(売却・賃貸等)による財源の確保	
	指標の内容	実績	実績	実績	
	活動の指標	目標	目標	目標	
	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
跡地活用の方向性(跡地活用方針など)のとりまとめ	目標	策定(箕子小跡地)	—	—	(未定)
	実績	策定(箕子小跡地)	—	—	(未定)
	達成率	—	—	—	(冷泉小跡地は未定)
	目標	策定(冷泉小跡地)	—	—	(未定)
公募による事業者選定、提案を踏まえ事業者及び地域・関係機関等との調整	目標	実施(青果市場跡地、箕子小跡地)	実施(青果市場跡地、箕子小跡地)	—	(未定)
	実績	実施(青果市場跡地)	実施(青果市場跡地、箕子小跡地)	—	(未定)
	達成率	—	—	—	(冷泉小跡地は未定)
	目標	実施(冷泉小跡地)	—	—	(未定)

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業区分 重点

事業名	九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくり		
所管課	計画調整課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成3年		九州大学の移転に伴う箱崎キャンパス周辺の地域活力低下を最小限とするともに、九大による円滑な土地処分に向け、計画的かつ速やかな土地利用転換を図り、良好な市街地の形成と新たな都市機能の導入を推進する。
根拠法令	なし		
行政計画	地域拠点、機能を充実・転換する地域(第9次福岡市基本計画)		

基本計画				
施策コード	主	4-4-1		施策成果指標
	再			
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている			
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり			
事業群	計画的な市街地整備の推進			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	九州大学箱崎キャンパス跡地および貝塚駅周辺
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	周辺地域と調和・連携した、良好な市街地の形成および新たな都市機能の導入を図る。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	○市長にまちづくりの方向性を確認
	○九州大学・URと公募内容についての検討・調整
	○関係部署と公募条件について協議・調整
	○地域住民(4校区協議会)へ検討内容の情報提供
	○用途地域変更等に係る都市計画手続き
	○都市再生緊急整備地域指定に向けた調整

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
歳出合計		528,353	
歳入	特定財源	383,900	
	一般財源	144,453	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳出合計		208,882	1,989,780
歳入	特定財源	125,000	1,765,455
	一般財源	83,882	224,325

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	・ランドデザインに基づき、土地利用計画を具体化するため、地域の意向を踏まえつつ、民間事業者から良好な提案を引き出すための事業の枠組みの検討を行う。	・事業者の意向を踏まえたより良い提案を引き出す手続き手法やまちづくりルール等が決定でき、多様な事業者が進出しやすくなる。	・ランドデザインに基づき、段階的な土地利用の転換、都市基盤の整備が行われ、周辺地域と調和・連携した、良好な市街地が形成されるとともに、新たな都市機能が導入される。	・多様な機能を持ちながら、まち全体の一体感が創出されている。 ・周辺地域と調和・連携・交流しながら、一体的に発展している。 ・持続的に発展し、100年後の未来に誇れるまちがつけられている。		
	指標の内容	実績	目標	実績		
	活動の指標	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
		目標	100	100	100	R 年度
実績		95	97			
達成率		95.0%	97.0%			
目標				R 年度		
実績						
達成率						

成果の指標(KPI)	指標の内容	実績	目標			
	活動の指標	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
		目標	0.0	0.0	0.0	R6年度
		実績	0.0	0.0		
		達成率	-	-		50.0
目標				R 年度		
実績						
達成率						

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	動物園の整備・運営	
所管課	動物園	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 平成14年度、新たに動物園を造ろうとした「福岡市自然動物公園構想」の中止を受け、老朽化した現在の動物園を存続していくために再生することになった。
開始年度	平成18年度	
根拠法令	なし	
行政計画	なし	

基本計画			事業区分	重点
施策コード	主	4-4-2	なし	なし
	再	5-1-2		
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている			
施策	まちと自然が調和した福岡型のコンパクトな都市づくり			
事業群	公園整備等の推進			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	○来園者 ○地域住民 ○飼育動物 ○管理運営者
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	○年間入園者数100万人、魅力ある動物展示の工夫(息づかい、行動の特性等)、利便性の向上(ユニバーサルデザインの導入等) ○周辺道路の渋滞対策及び公共交通利用促進 ○飼育動物の福祉(エンリッチメント)向上 ○入園者増加による収益向上

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	①H30年10月にオープンした新エントランス施設で、ワークショップやイベントを実施
	②新ペンギン展示施設整備工事への着手(2021年春オープン予定)
	③閑散期(夏・冬)の集客企画と情報発信を実施
	④民間企業と連携した動植物園ラッピングバス(4台)の運行継続
	⑤サイの再導入及びミャンマーと動物交流覚書を締結し、2年計画でアジアゾウ導入を計画。

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計	606,890	
歳入	特定財源	327,691
	一般財源	279,199
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
歳出合計	1,544,058	1,737,109
歳入	特定財源	920,121 986,000
	一般財源	623,937 751,109

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) ○「福岡市動植物園再生基本計画」における的確かつ計画的な設計および工事発注の進行管理。 ○現場スタッフのオリジナルアイデア投入 ○戦略的な情報発信 ○公共交通利用促進	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) ○整備スケジュールに基づく計画的な施設完成と福岡独自の魅力的な施設整備 ○メディアや市民の関心度向上 ○周辺道路の渋滞緩和や環境負荷低減、満足度向上 ○入園者増加による収益向上	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) ○魅力的な施設の整備や関心・満足度向上 ○ストレスのない、生き生きとした動物展示 ○地域住民との良好な関係 ○計画的な管理運営	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) ○人と地球にやさしい都市の構築 ○入園者数増加による →収益の増加 →環境教育及び観光推進に貢献																																																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">工事の進捗率(%)</td> <td>目標</td> <td>44.6</td> <td>59.5</td> <td rowspan="3">71.6</td> <td rowspan="3">R7年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>51.5</td> <td>52.1</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>115.5%</td> <td>87.6%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">全体工事費ベース(約90億円)</td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="3">90.0</td> <td rowspan="3">R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	工事の進捗率(%)	目標	44.6	59.5	71.6	R7年度	実績	51.5	52.1	達成率	115.5%	87.6%	全体工事費ベース(約90億円)	目標			90.0	R年度	実績			達成率			<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">入園者数(動植物園)</td> <td>目標</td> <td>900,000</td> <td>900,000</td> <td rowspan="3">900,000</td> <td rowspan="3">R7年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>826,215</td> <td>815,980</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>91.8%</td> <td>90.7%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3"></td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3">R年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	入園者数(動植物園)	目標	900,000	900,000	900,000	R7年度	実績	826,215	815,980	達成率	91.8%	90.7%		目標				R年度	実績			達成率		
	指標の内容			年度	実績		目標																																																															
		H30年度	R1年度		R2年度	最終年度																																																																
	工事の進捗率(%)	目標	44.6	59.5	71.6	R7年度																																																																
実績		51.5	52.1																																																																			
達成率		115.5%	87.6%																																																																			
全体工事費ベース(約90億円)	目標			90.0	R年度																																																																	
	実績																																																																					
	達成率																																																																					
指標の内容	年度	実績		目標																																																																		
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																	
入園者数(動植物園)	目標	900,000	900,000	900,000	R7年度																																																																	
	実績	826,215	815,980																																																																			
	達成率	91.8%	90.7%																																																																			
	目標				R年度																																																																	
	実績																																																																					
	達成率																																																																					

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業区分 重点

事業名	交通マネジメントの推進		
所管課	交通計画課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成24年度		本格的な高齢社会の到来や環境問題の深刻化、不採算バス路線の廃止などの課題に対応するため、交通体系の主軸である公共交通ネットワークを強化し、マイカーに過度に頼らない社会を実現する必要がある。
根拠法令	なし		
行政計画	福岡市都市交通基本計画		

基本計画				
施策コード	主	4-5-1		施策成果指標 ○1日あたりの鉄道・バス利用人員 (H22:108万4千人 → R4:120万人) ※H30実績:129.0万人 ○公共交通が便利と感じる市民の割合 (H24:77.4% → R4:現状維持)
	再			
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている			
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築			
事業群	公共交通ネットワークの充実			

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	公共交通機関(鉄道・バス)
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	異なる公共交通機関(地下鉄/西鉄電車/西鉄バス/JR等)が相互に連携し、利用者にとって使いやすい公共交通ネットワークとなり、多くの市民・来訪者に利用されている状態

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	「福岡市交通基本計画」で掲げた基本的な方針のうち、「公共交通を主軸とした総合交通体系づくりの推進(方針1)」を踏まえ、その実施計画である「福岡市総合交通戦略」に位置付けた各種施策について検討・実施した。 ・鉄道駅へのバス停近接化に向けた取組みや公共交通相互の乗継利便性向上の実施等 ・転入者や小学校低学年に対する公共交通情報提供のモビリティマネジメント(MM) ・大型商業施設駐車場を活用したパークアンドライド(P&R)の実施等 ・交通事業者連携による外国人旅行者を対象とした公共交通共通乗車券(FTCP)の実施等

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
	歳出合計	93	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	93	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳入	歳出合計	1,076	2,280
	特定財源	0	0
	一般財源	1,076	2,280

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) 利用者にとって使いやすい公共交通が主軸となった総合交通体系の構築に向けたロードマップを、交通事業者や道路管理者等の関係者との共働により策定する。	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) ①のロードマップに基づいて、関係者(交通事業者、市、道路管理者等)の連携により、PDCAサイクルで取り組みが進められる。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) ②のプランを実行し、色々な公共交通機関(地下鉄/西鉄電車/西鉄バス/JR等)が相互に連携した、利用者にとって使いやすい公共交通ネットワークが形成される。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) マイカーに過度に依存しなくてもよい、公共交通を中心とした交通体系が構築された社会となっている。
	▶	▶	▶	
	▶	▶	▶	

活動の指標	指標の内容	年度	実績		目標	
			H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
活動の指標	実施施策数	目標	21	26	26	R4年度
		実績	19	20		26
		達成率	90.5%	76.9%		
		目標				
成果の指標(KPI)	1日あたりの鉄道・バス利用人員	目標	116万人	117万人	118万人	R4年度
		実績	129万人	集計中		120万人
		達成率	111.2%	-		
		目標	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)		
成果の指標(KPI)	公共交通が便利と感じる市民の割合	実績	79.5%	78.6	現状維持(80%程度)	R4年度
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標				

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	東部地域における鉄道計画調査	
所管課	交通計画課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か ・都市交通審議会答申[昭和46年] 都心部から箱崎方面に至る路線(現地下鉄2号線)を新設し、西鉄宮地岳線(現貝塚線)との直通運転について検討が必要
開始年度	平成17年度	
根拠法令	なし	
行政計画	福岡市都市交通基本計画	

基本計画			事業区分 重点 事業成果指標
施策コード	主	4-5-1	
	再		
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築		
事業群	公共交通ネットワークの充実		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	地下鉄2号線、西鉄貝塚線利用者及び沿線居住者等
	対象をどのような状態にしたいのか	貝塚駅における乗継ぎが解消され、福岡市東部地域と都心部間の交通利便性の向上が図られる。
事業目的		

実施内容(手段)	R元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	<ul style="list-style-type: none"> ・直通運転化に向けては、事業の収支採算性や費用対効果(B/C)の改善が課題となっており、国庫補助採択のためには、初期投資費用の圧縮とともに、利便性の確保を図ることが必要。 ・これまでの事業スキームを見直し、既存の施設をできる限り活用して初期投資費を抑えつつ、現状どおり地下鉄箱崎線から空港線(姪浜方面)への直通列車が維持される事業スキーム案(貝塚駅での列車の増解結)について検討中。 ・R元年度は、再検討案の運行スキームや初期投資費について確認するとともに、今後第5回パーソントリップ調査の結果を用いて将来利用者数を推計し、直通運転化事業の費用対効果(B/C)や収支採算性を試算することを交通対策特別委員会に報告。

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
歳出合計		4,673	
歳入	特定財源	0	
	一般財源	4,673	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳出合計		3,737	5,000
歳入	特定財源	0	0
	一般財源	3,737	5,000

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	実現可能性が見込まれる運営スキームの構築にむけて、鉄道事業者と協議・調整を行う。	地下鉄2号線と西鉄貝塚線が直通運転化され、利用者の乗継ぎが解消される。	貝塚駅における乗継ぎが解消され、福岡市東部地域と都心部間の交通利便性の向上が図られる。	沿線の新しいまちづくりや商業業務機能集積により福岡型のコンパクトな都市が形成される。 交通混雑の緩和や環境負荷の低減など環境に優しい都市が構築される。		
	指標の内容	実績	目標	実績	目標	
	活動の指標	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
		目標	1	1		R4年度
実績		1	1	1		
達成率		100.0%	100.0%		1	
	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	
成果の指標(KPI)	目標	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)		R4年度	
	実績	79.5%	78.6%	現状維持(80%程度)		
	達成率	100.0%	100.0%		現状維持(80%程度)	
	目標				R4年度	
	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	
成果の指標(KPI)	目標				R4年度	
	実績					
	達成率					
	目標				R4年度	

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業区分 重点

事業名	都心拠点間の交通ネットワーク強化の検討		
所管課	都心交通課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 市が主要事業の一つとしてMICE誘致の推進に取り組む中で、新たな展示場の検討が行われるなどウォーターフロントエリアの重要性が高まっており、都心部(天神・渡辺通、博多駅、ウォーターフロント)の拠点間の回遊性を高め、来訪者にもわかりやすい公共交通によるアクセス強化に取り組む必要があった。
開始年度	平成23年度		
根拠法令	なし		
行政計画	福岡市都市交通基本計画、福岡市総合交通戦略		

基本計画			
施策コード	主	4-5-1	
	再	5-4-1	8-1-2
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築		
事業群	公共交通ネットワークの充実		

施策成果指標	施策4-5成果指標 ・1日あたりの鉄道・バス乗車人員 現状値(2010年)108万4千人 目標値(2022年)120万人 ・公共交通の便利さへの評価 (鉄道やバスなどの公共交通が便利と感じる市民の割合) 現状値(2012年)77.4% 目標値(2022年)現状維持(80%程度を維持)
---------------	---

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 都心3拠点(天神・博多駅・ウォーターフロント地区)を回遊する市民や来街者
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 国際競争力を備えた九州・アジアをつなぐ交流拠点として、本市の成長を牽引する天神・渡辺通地区、博多駅周辺地区、アジアとの玄関口であるウォーターフロント地区間の回遊性を高め、市民や来街者にもわかりやすい公共交通によるアクセス強化を図るもの。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○都心循環BRTの形成に向けた連節バスによる運行の実施 ・市民の声を踏まえ、R1.7からこれまでの約20分～30分間隔、1日62便の運行から約15分間隔、1日94便の運行に移行。 ○都心循環BRTの形成については、総合的な都心部交通対策のひとつであることから、「道路交通混雑の緩和」や「都心拠点間の交通ネットワークの強化」について、都心循環BRTにおけるバス路線の再編・効率化、運行、バス走行空間の視点から検証を実施。
-----------------	---

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
	歳出合計	4,222
歳入	特定財源	9
	一般財源	4,213
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
	歳出合計	12,771 1,836
歳入	特定財源	11 0
	一般財源	12,760 1,836

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)
	○交通アクセス強化における段階的な整備スケジュール(プロセス)の確定 ○関係者と協議・調整 ○適宜情報発信(市民などへのわかりやすい情報提供)	○交通アクセス強化の段階的なプロセスが示され ○本事業の目的、プロセスを理解し、合意形成が図られている。	○都心拠点間の公共交通によるアクセスが市民や来訪者にとってわかりやすく利用しやすいものとなる。 ○都心部の案内誘導が充実し、市民や来訪者にとってわかりやすいものとなる。 ○本事業の目的、プロセスを市民が理解している。	○都心拠点間の公共交通によるアクセスが市民や来街者に定着する。 ○都心部の回遊性が向上する。 ○都心部における公共交通の利用者が増え、自動車利用者が減ることにより、「道路交通混雑の緩和」や「都心拠点間の交通ネットワークの強化」が図られる。
	活動の指標	成果の指標(KPI)		

	指標の内容	実績		目標		
		年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
活動の指標	公共交通が便利と感じる市民の割合	目標				R 年度
		実績				
		達成率				
		目標				R 年度
成果の指標(KPI)	公共交通が便利と感じる市民の割合	目標	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)		R4年度
		実績	80.4	79.5	現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)
		達成率	100.0%	100.0%		
		目標				R 年度
		実績				
		達成率				

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	都心部における交通マネジメント施策の推進		
所管課	都心交通課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か 都心部、特に天神地区の交通混雑悪化を契機として、交通需要の調整や交通容量の回復を図るため、「福岡市交通マネジメント施策推進協議会」において打ち出された交通施策の方向性に基づき、交通マネジメント施策を展開する必要があった。
開始年度	平成14年		
根拠法令	なし		
行政計画	福岡市都市交通基本計画、福岡市総合交通戦略		

基本計画			
施策コード	主	4-5-2	
	再	8-1-2	
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築		
事業群	交通マネジメントの推進(公共交通機関や自転車利用の促進等)		
施策成果指標	施策4-5成果指標		
	・1日あたりの鉄道・バス乗車人員 現状値(2010年)108万4千人 目標値(2022年)120万人		
	・公共交通の便利さへの評価 (鉄道やバスなどの公共交通が便利と感じる市民の割合) 現状値(2012年)77.4% 目標値(2022年)現状維持(80%程度を維持)		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 都市機能の集積や自動車交通の集中により交通混雑が慢性化している福岡都心部
	対象をどのような状態にしたいのか 都心部における交通混雑の緩和や交通結節機能の強化を図り、円滑な都市活動を支える快適な交通環境を創造するもの。
事業目的	

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ・フリンジパーキングの長期実証実験の実施 ・天神地区の交通課題解決に向けた、天神交通戦略に基づくWeLove天神協議会(WLT)との共働による短中期施策の検討及び実施 ・博多駅筑紫口駅前広場再整備に向けて、地域や交通事業者等をメンバーとする「博多駅筑紫口駅前広場再整備意見交換会」の開催や関係者との協議・調整を行い、レイアウト案をとりまとめた。

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計		5,143
歳入	特定財源	0
	一般財源	5,143
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30
	R2	
歳出合計	2,749	7,500
歳入	特定財源	0
	一般財源	2,749
	R2	7,500

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)	
	○公共交通利用啓発活動の実施 ○フリンジパーキングの確保に向けた検討 ○交通結節機能の強化	○これまでの移動手段からの変容が生じる(市民の公共交通利用が増加する、市民が自動車を賢く利用するようになる) ○フリンジパーキングが確保される ○交通結節点において快適な空間が創出される	○公共交通分担率が上がる ○自動車分担率が下がる ○都心中心部への自動車流入が抑制される ○交通結節点における乗継抵抗が低減される	○都心部の交通環境が快適となる(交通混雑緩和、交通円滑化、交通結節機能強化) ○都心部が、人を中心として安全・快適に歩ける交通体系となる	
	指標の内容	実績	目標	実績	
	活動の指標	年度	H30年度	R1年度	R2年度
	目標				R4年度
	実績			118万人	120万人
	達成率				
	目標				R4年度
	実績			現状維持(80%程度)	現状維持(80%程度)
	達成率			100.0%	100.0%

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業区分 重点

事業名	生活交通支援		
所管課	交通計画課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成18年度		平成14年度の道路運送法の改正に伴い、バス路線の廃止が許可制から事前届出制となったことから、市内を運行する路線バスにおいても、不採算路線の休廃止の届け出がなされ、公共交通が空白地となる地域において、生活交通(代替交通)の確保が必要となるため、財政負担による支援を行うもの。
根拠法令	公共交通空白地等及び移動制約者に係る生活交通の確保に関する条例		
行政計画	福岡市都市交通基本計画		

基本計画			
施策コード	主	4-5-4	
	再		
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている		
施策	公共交通を主軸とした総合交通体系の構築		
事業群	生活交通の確保		
施策成果指標	○1日あたりの鉄道・バス利用人員 (H22:108万4千人 → R4:120万人) ○公共交通が便利と感じる市民の割合 (H24:77.4% → R4:現状維持)		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	公共交通空白地、公共交通不便地等の居住者
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	生活交通は、通勤、通学、通院、買い物その他の日常生活に欠かすことのできない、市民の諸活動の基盤であり、その移動手段について、必要最低限の生活交通の確保を行う。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	・休廃止対策 路線バスの休廃止に伴い、公共交通空白地となる地域において、代替交通の運行経費に補助を行っている。【5路線:今宿姪浜線、板屋脇山線、志賀島島内線、脇山支線、金武橋本線】
	・不便地対策 公共交通の利用が不便な地域やそれに準ずる地域において、地域主体の取組みに対する検討経費や交通事業者が実施する試行運行の経費に補助を行っているが、関係者の合意が得られず予算執行には至らなかった。
	・生活交通確保支援 休廃止対策や不便地対策の対象以外の地域において、生活交通確保に向けた地域主体の取組みに対して、地域と交通事業者間の調整などの活動支援を行っている。
	・請願採択を受け、生活交通に関する住民意識調査を実施した。

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計		56,887
歳入	特定財源	4,573
	一般財源	52,314
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30
歳出合計	H30	58,314
	R2	63,083
歳入	特定財源	4,754
	一般財源	58,329

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)																																																																										
	○公共交通が空白地となる地域における代替交通の確保・支援 ○地域主体による生活交通確保の取組みに対する支援	○休廃止対策路線の維持 ○地域実情に応じた公共交通サービスの確保	○必要最低限の生活交通が確保されている。	○地域の実情に応じた生活交通が確保され、公共交通が便利と感じる市民の割合が増えている。																																																																										
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">バス連絡協議会の開催回数(回/年度毎) 【5路線(1回/路線)】</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">180.0%</td> <td style="text-align: center;">160.0%</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公共交通不便地における地域の取組に対する支援(地区/年度毎)</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td style="text-align: center;">50.0%</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	バス連絡協議会の開催回数(回/年度毎) 【5路線(1回/路線)】	目標	5	5	5	R 年度	実績	9	8	-	達成率	180.0%	160.0%	-	公共交通不便地における地域の取組に対する支援(地区/年度毎)	目標	2	2	2	R 年度	実績	2	1	-	達成率	100.0%	50.0%	-	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">休廃止対策路線のバス利用者数(千人/年度毎)</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">169</td> <td style="text-align: center;">174</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">180</td> <td style="text-align: center;">R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">170</td> <td style="text-align: center;">167</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">100.6%</td> <td style="text-align: center;">96.0%</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">不便地対策実施地区数(累計)</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td style="text-align: center;">75.0%</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	休廃止対策路線のバス利用者数(千人/年度毎)	目標	169	174	180	R 年度	実績	170	167	-	達成率	100.6%	96.0%	-	不便地対策実施地区数(累計)	目標	3	4	4	R 年度	実績	3	3	-	達成率	100.0%	75.0%	-
	指標の内容			年度	実績		目標																																																																							
		H30年度	R1年度		R2年度	最終年度																																																																								
バス連絡協議会の開催回数(回/年度毎) 【5路線(1回/路線)】	目標	5	5	5	R 年度																																																																									
	実績	9	8		-																																																																									
	達成率	180.0%	160.0%		-																																																																									
公共交通不便地における地域の取組に対する支援(地区/年度毎)	目標	2	2	2	R 年度																																																																									
	実績	2	1		-																																																																									
	達成率	100.0%	50.0%		-																																																																									
指標の内容	年度	実績		目標																																																																										
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																									
休廃止対策路線のバス利用者数(千人/年度毎)	目標	169	174	180	R 年度																																																																									
	実績	170	167		-																																																																									
	達成率	100.6%	96.0%		-																																																																									
不便地対策実施地区数(累計)	目標	3	4	4	R 年度																																																																									
	実績	3	3		-																																																																									
	達成率	100.0%	75.0%		-																																																																									

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

		事業区分	重点	基本計画		
事業名	みどり活用推進事業					
所管課	みどり活用課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か			
開始年度	平成25年度		これからの公園や街路樹などの整備・管理運営については、限られた財源の中で、社会状況の変化や市民の多様なニーズに的確に対応する必要がある。そこで、これまでの「創る・守る」視点だけでなく、「活かす・育てる」視点を加えみどり行政を進める。			
根拠法令	なし					
行政計画	福岡市 新・緑の基本計画					
施策コード	主 4-6-1	施策成果指標	身近な緑への満足度 31.6% → 50% (身近な地域において緑が豊かになっていると感じる市民の割合)			
再	4-4-2					
分野別目標	人と地球にやさしい、持続可能な都市が構築されている					
施策	ストックの活用による地区の価値や魅力の向上					
事業群	公共空間の利活用の推進					

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか	みどり資産	実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか	事業費(千円)																		
	対象をどのような状態にしたいのか	みどり経営基本方針の理念が浸透し、職員のみどり資産活用に対するマインドの向上や体制の整備、市民・地域・企業によるみどり整備・運営への参画の充実、みどり資産整備・運営経費の収支改善等が実施されている状態。		①公園駐車場の有料化 大井中央公園の駐車場有料化、青葉公園の駐車場有料化についての検討 ②官民連携事業 高宮南緑地(旧高宮貝島家住宅)整備・管理運営事業について、公募により決定した事業者と、事業実施協定を締結。(および事業者協議の実施) ③コミュニティパーク事業の推進																			
事業目的	令和元年度決算額(見込額)																						
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="width: 10%;">歳出合計</th> <th style="width: 10%; text-align: right;">109,136</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-align: center;">歳入</td> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-align: center;">特定財源</td> <td style="text-align: right;">79,466</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-align: center;">一般財源</td> <td style="text-align: right;">29,670</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							歳出合計	109,136	歳入	特定財源	79,466		一般財源	29,670								
		歳出合計	109,136																				
歳入	特定財源	79,466																					
	一般財源	29,670																					
前年度決算額・翌年度予算額																							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th style="width: 10%;">年度</th> <th style="width: 10%;">H30</th> <th style="width: 10%;">R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: center;">歳出合計</td> <td style="text-align: right;">57,499</td> <td style="text-align: right;">243,100</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-align: center;">歳入</td> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-align: center;">特定財源</td> <td style="text-align: right;">48,435</td> <td style="text-align: right;">198,181</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-align: center;">一般財源</td> <td style="text-align: right;">9,064</td> <td style="text-align: right;">44,919</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							年度	H30	R2			歳出合計	57,499	243,100	歳入	特定財源	48,435	198,181		一般財源	9,064	44,919	
		年度	H30	R2																			
		歳出合計	57,499	243,100																			
歳入	特定財源	48,435	198,181																				
	一般財源	9,064	44,919																				

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)																																																																														
	<ul style="list-style-type: none"> みどり経営基本方針を基に市民との共働や収支の改善、資産の有効活用を進め、みどり資産の価値の向上を図る。当面、下記の事業を進める。 市民との共働: コミュニティパーク事業の推進、市民や企業との共働による花のまちづくりの推進 収支の改善: 駐車場の有料化、使用料や占用料の見直し、街路樹再整備方針の策定 資産の有効活用: 特別緑地保全地区における保全、活用の推進、官民連携事業(PPP)の推進 	<ul style="list-style-type: none"> みどりの維持管理へ市民参加が促進される 公園ににぎわいが生まれる 管理コストが削減される 資産有効活用による歳入増又は歳出減 	みどり資産の価値が高まる。 ①: 地域住民の生活に根ざした身近な公園→地域自ら活かし育て、憩いやコミュニティ活動、健康づくり、学びの場となっている ②: 広域から多くの利用者が集う公園→質の高いサービスとともに活かされ、都市の賑わいや活力の創出につながっている ③: 都市の骨格と個性ある都市景観を形成する緑→まちを彩り、風格ある街並みを形成する緑として育て、愛されている ④: 地域住民に親しまれる身近な森→地域の貴重な緑として自ら守り育て、共存し、愛されている	「生活の質の向上」と「都市の成長」の好循環を創出																																																																														
	活動の指標	成果の指標(KPI)																																																																																
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">駐車場有料化実施公園数(箇所)</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">13</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">16</td> <td style="text-align: center;">R2年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">16</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">民間活力導入事例数(箇所)</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">R2年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">150.0%</td> <td style="text-align: center;">100.0%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	駐車場有料化実施公園数(箇所)	目標	12	13	16	R2年度	実績	12	13	16	達成率	100.0%	100.0%		民間活力導入事例数(箇所)	目標	2	3	4	R2年度	実績	3	3	4	達成率	150.0%	100.0%		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合【%】</td> <td>目標</td> <td style="text-align: center;">45.4</td> <td style="text-align: center;">47.7</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">50.0</td> <td style="text-align: center;">R2年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td style="text-align: center;">29.9</td> <td style="text-align: center;">30.6</td> <td style="text-align: center;">50.0</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td style="text-align: center;">65.9%</td> <td style="text-align: center;">64.2%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">R年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合【%】	目標	45.4	47.7	50.0	R2年度	実績	29.9	30.6	50.0	達成率	65.9%	64.2%		目標			R年度		実績						達成率						
指標の内容	年度			実績		目標																																																																												
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																													
駐車場有料化実施公園数(箇所)	目標	12	13	16	R2年度																																																																													
	実績	12	13		16																																																																													
	達成率	100.0%	100.0%																																																																															
民間活力導入事例数(箇所)	目標	2	3	4	R2年度																																																																													
	実績	3	3		4																																																																													
	達成率	150.0%	100.0%																																																																															
指標の内容	年度	実績		目標																																																																														
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																													
身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合【%】	目標	45.4	47.7	50.0	R2年度																																																																													
	実績	29.9	30.6		50.0																																																																													
	達成率	65.9%	64.2%																																																																															
	目標				R年度																																																																													
	実績																																																																																	
	達成率																																																																																	

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	セントラルパーク構想推進事業		
所管課	みどり活用課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成25年度		<ul style="list-style-type: none"> ・舞鶴城址将来構想策定時から20年以上経過し、社会情勢が変化 ・史跡の発掘調査及び史跡内施設の移転が進展 ・第9次福岡市基本計画での位置づけ ・構想策定に共同で取り組むことへの県の合意
根拠法令	なし		
行政計画	福岡市 新・緑の基本計画		

基本計画				事業区分	重点
施策コード	主	5-2-1		〇過去3年間に福岡城跡(舞鶴公園)に行ったことがある市民の割合 (H28年度:55%, R4年度:60%)	
	再	8-1-1			
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている				
施策	緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり				
事業群	市民の憩いと集客の拠点づくり(大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等)				

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	<ul style="list-style-type: none"> ①県民・市民 ②国内外からの観光客
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	<ul style="list-style-type: none"> ①大濠公園・舞鶴公園が一体となって、日常的な憩いの場として利用されている状態 ②両公園が本市の貴重な観光資源として磨き上げられ、魅力的な観光地となり、福岡の一泊の目的地となっている状態

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	<ul style="list-style-type: none"> ・セントラルパーク基本計画を策定した。 ・福岡城さくらまつりや指定管理者の自主事業の充実、多様な民間イベントの受入れ等により、季節を通じた賑わいを創出した。 ・イベントガイドを作成して、各所で配布し情報発信を強化した。 ・大濠公園と舞鶴公園の一体的な運用等に関する情報共有や協議検討を行うことを目的とした大濠・舞鶴公園連絡会議を開催した。 ・指定管理者の自主事業の充実等により、市民・企業との共働を促進した。 ・大濠公園と舞鶴公園共通のサインマニュアルに基づき、誘導サインの設置やベンチの更新、トイレの洋式化等による回遊性・快適性の向上に取り組んだ。 ・旧高等裁判所跡地の公園整備に向けて建物の解体に着手した。 ・城内住宅の移転(2区画)を進めた。

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
歳出合計	872,326		
歳入	特定財源	742,131	
	一般財源	130,195	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳出合計	924,843		876,838
	特定財源	803,529	747,335
歳入	一般財源	121,314	129,503

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	<p>①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県市共同でセントラルパーク基本計画を策定する。 ・既存イベントの充実や多様なイベントを受入れるとともに、イベントしやすい環境づくりを行う。 ・県市で組織を設置し、管理運営の連携を図る。 ・市民・企業等の参加の機会を増やす。 ・史跡の発掘調査や復元整備、一体的な公園整備を進める。 ・非史跡施設の移転を進める。 	<p>②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両公園の今後の整備方針が決定する。 ・大濠公園や周辺も含めたエリアで、官民一体となり、福岡城さくらまつり等が実施されている。 ・年間を通して多様なイベントが実施され、賑わいが創出される。 ・両公園で一体的な管理運営が行われている。 ・市民・企業等との共働した取組みが増加する。 ・両公園の見所が増え、回遊性も向上する。 ・非史跡施設が城内からなくなっている。 	<p>③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憩いの場としての魅力や利便性が向上し、公園利用者や公園運営に参加する県民・市民が増加する。 ・九州・西日本の魅力的な観光スポットとして、国内のみならず、海外からの観光客も増加する。 	<p>④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な空間となることで、周辺居住者が増加するとともに、観光客の増加で経済活動が活発化する。 ・海外からの観光客増加で、アジアの交流拠点都市として国際競争力が向上する。 																																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">セントラルパーク基本計画の策定</td> <td>目標</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td rowspan="3">—</td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>80.0</td> <td>100.0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>80.0%</td> <td>100.0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">イベントの年間開催日数</td> <td>目標</td> <td>70</td> <td>75</td> <td rowspan="3">80日</td> <td>R6年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>130</td> <td>235</td> <td>100日</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>185.7%</td> <td>313.3%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	セントラルパーク基本計画の策定	目標	100.0	100.0	—	R 年度	実績	80.0	100.0	—	達成率	80.0%	100.0%		イベントの年間開催日数	目標	70	75	80日	R6年度	実績	130	235	100日	達成率	185.7%	313.3%		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">指標の内容</th> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">実績</th> <th colspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>最終年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">過去3年間に福岡城跡(舞鶴公園)に行ったことがある市民の割合</td> <td>目標</td> <td>56.7%</td> <td>57.5%</td> <td rowspan="4">58.3%</td> <td>R4年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>62.0%</td> <td>58.4%</td> <td>60.0%</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>109.3%</td> <td>101.6%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td>R 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標の内容	年度	実績		目標		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	過去3年間に福岡城跡(舞鶴公園)に行ったことがある市民の割合	目標	56.7%	57.5%	58.3%	R4年度	実績	62.0%	58.4%	60.0%	達成率	109.3%	101.6%		目標			R 年度	実績					達成率				
	指標の内容			年度	実績		目標																																																																							
		H30年度	R1年度		R2年度	最終年度																																																																								
	セントラルパーク基本計画の策定	目標	100.0	100.0	—	R 年度																																																																								
実績		80.0	100.0	—																																																																										
達成率		80.0%	100.0%																																																																											
イベントの年間開催日数	目標	70	75	80日	R6年度																																																																									
	実績	130	235		100日																																																																									
	達成率	185.7%	313.3%																																																																											
指標の内容	年度	実績		目標																																																																										
		H30年度	R1年度	R2年度	最終年度																																																																									
過去3年間に福岡城跡(舞鶴公園)に行ったことがある市民の割合	目標	56.7%	57.5%	58.3%	R4年度																																																																									
	実績	62.0%	58.4%		60.0%																																																																									
	達成率	109.3%	101.6%																																																																											
	目標				R 年度																																																																									
実績																																																																														
達成率																																																																														

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業区分 重点

事業名	快適で高質な都心回遊空間の創出事業		
所管課	都心創生部 都心創生課	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成25年度		都心部の更なる機能強化と魅力づくりを図るため、核となる天神・渡辺通、博多駅、ウオーターフロントの3地区の都市機能を高めるとともに、各地区が相互に連携し、都心部全体の活力が向上するよう、回遊性強化に取り組むもの。
根拠法令	なし		※第9次福岡市基本計画(H24.12策定)「施策5-3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり」
行政計画	なし		

基本計画			
施策コード	主	5-3-2	
	再	8-1-1	
分野別目標	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策	情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり		
事業群	交通利便性や都心回遊性の向上		
施策成果指標	なし		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 都心部において働く人、住む人、訪れる人など
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか ・歩いて楽しく、魅力ある回遊空間の形成により、働くひと、住む人、訪れる人の心に残る美しいまちとなり、都心部の歩行者が増加する。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか ○都心回遊に関する庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて、事業全体の最適化を図っている。 (事業の優先順位の整理や、関係課と連携した事業計画の立案) ○天神ビッグバンの奥座敷(西中洲)～情緒ある路地空間の創出～西中洲地区の魅力づくりに向けた景観誘導 ○水辺の公園再整備(清流公園)
-----------------	--

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計		39,498
歳入	特定財源	36,195
	一般財源	3,303
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30
	R2	
歳出合計	134	5,902
歳入	特定財源	0
	一般財源	134
		5,902

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) 道路、河川、公園などの回遊空間のコンセプトやデザイン、回遊スポットとなるにぎわい空間の創出について、関係局連携のもと検討・共有・整備を推進する。	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) 都心部回遊空間の形成とあわせて、エリアマネジメント組織等による回遊空間等での活動が活発になることで都心部に賑わいと活力を与える。	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) 都心部の回遊空間を歩行する市民や来街者等が増加する。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) 都心部を回遊する市民や来街者の増加により、飲食、買い物、宿泊など様々な経済波及効果をもたらされ、市全体の活力が向上する。
	活動の指標	成果の指標(KPI)		
	指標の内容	指標の内容		
	年度	実績	目標	
	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
エリアマネジメント組織等と当課とのまちづくり検討に係る協議回数	目標	50	50	R 年度
	実績	75	67	-
	達成率	150.0%	134.0%	-
エリアマネジメント組織等による公開空地等でのイベント開催件数	目標	20	20	R 年度
	実績	35	36	-
	達成率	175.0%	180.0%	-
	年度	実績	目標	
	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
都心部の1日あたりの歩行者交通量(天神地区、博多駅地区の調査地点のうち12地点の合計(平日7時～20時))(単位:万人)	目標	-	-	R4年度
	実績	-	-	-
	達成率	-	-	11.3
	目標	-	-	R 年度
	実績	-	-	-
	達成率	-	-	-

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	ウォーターフロント再整備の推進	
所管課	住宅都市局 都心創生部	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
	WF再整備推進課・WF再整備計画課	
開始年度	平成25年度	背景 ・クルーズ船の寄航回数の急増やコンベンション施設の多い稼働率により都市機能の供給力不足が顕在化した。 ・第9次福岡市基本計画に、WF地区の都市機能を高めることが位置づけられた。
根拠法令	なし	
行政計画	第9次福岡市基本計画	

基本計画				施策成果指標
施策コード	主	8-1-1		
	再	5-4-1	8-4-2	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている			
施策	都市の活力を牽引する都心部の機能強化			
事業群	都心部の機能強化と魅力づくり			

都心部の従業者数 (H34年度目標値: 40万人)
都心部の1日あたりの歩行者交通量 (H34年度目標値: 113千人)

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	・市民 ・国内外からの来街者 (MICE施設利用者、クルーズ船利用客等)
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	・MICE・クルーズの機能強化が図られ、世界中の人々の出会いと交流が生まれている。 ・都心の貴重な海辺空間で、市民や来街者が日常的に憩い、楽しんでいる。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	・R1.5月に立体駐車場、R1.9月にマリンメッセ福岡B館の工事に着手した。 (経済観光文化局)
	・H31.2月からR1.8月に民間サウンディングを行い、その結果をR1.10月に議会報告した。
	<実施概要> 事業化区域の公募条件の検討等に役立てるため、「基本スキーム(素案)」を基に実施
	○ヒアリング項目 MICE、クルーズ、賑わい、事業手法に関すること

○参加者数 44社 [ディベロッパー15社、建設関係9社、設計・管理等10社、金融関係10社]
・市民等へ周知を図るため、出前講座や地元説明等を実施した。

事業費(千円)			
令和元年度決算額(見込額)			
歳出合計	40,129		
歳入	特定財源		
	一般財源	40,129	
前年度決算額・翌年度予算額			
	年度	H30	R2
歳出合計	64,830		34,000
	歳入		
歳入	特定財源		
	一般財源	64,830	34,000

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	・再整備の対象内容を決定し、対外的に明示する。 ・民間活力を活用した最適な事業スキームを構築し、事業者公募を実施する。 ・市民や事業者への広報や情報発信を行う。	・民間事業者の活力やノウハウが活かされ、再整備に関する市の要求水準が、効果的・効率的に達成される。 ・事業に対する市民の理解が深まるとともに、民間事業者の事業参画意欲が高まる。	・MICE・クルーズの機能強化が図られ、世界中の人々の出会いと交流が生まれている。 ・都心の貴重な海辺空間で、市民や来街者が日常的に憩い、楽しんでいる。	・福岡・九州・西日本の成長をけん引する新たな都心拠点が形成される。		
	指標の内容	実績	目標	実績		
	活動の指標	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
		目標	10件	10件	10件	R年度
実績		14件	13件	-		
達成率		140.0%	130.0%			
目標				R年度		
実績				-		
達成率						

成果の指標(KPI)	指標の内容	年度	実績		目標	
	都心部の従業者数 (単位: 万人)	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
		目標	-	-		R4年度
		実績	-	-	-	40.0
		達成率	-	-	-	
都心部の1日あたりの歩行者交通量(天神地区、博多駅地区の調査地点のうち12地点の合計(平日7時~20時))(単位: 万人)	目標	-	-		R4年度	
	実績	-	-	-	11.3	
	達成率	-	-	-		

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	都心部のまちづくりの推進	
所管課	都心創生部 都心創生課	背景 福岡市においても将来的には人口や税収の減少が見込まれる中、これまで以上に都市の機能強化と魅力づくりを図ることが必要。そのためには都市の成長を牽引する都心部において、計画的な機能更新により、あらゆる人の活動を支えるための都市機能に磨きをかける必要がある。
開始年度	平成20年度	
根拠法令	なし	
行政計画	なし	

基本計画			事業成果指標 都心部の従業者数 (H34年度目標値: 40万人)
施策コード	主 8-1-1	再 7-4-1	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		
施策	都市の活力を牽引する都心部の機能強化		
事業群	都心部の機能強化と魅力づくり		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか
	都心部において働く人、住む人、訪れる人など
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか
	都心部のまちづくりを通じて、人と経済活動を呼び込み、様々な投資やサービスの提供がなされ、そこに様々な雇用が生まれることで、生活の質が更に高まっていく。

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	<p>○市独自の容積率緩和制度(都心部機能更新誘導方策, 天神ビッグバンボーナス・博多コネクティッドボーナスなど)や航空法高さ制限の特例承認等の活用により、ビルの建替え等を誘導し、都心部の機能強化と魅力づくりを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心部機能更新誘導方策適用(ビル建替え計画: 2件) ・令和元年5月、「博多コネクティッドボーナス」の運用開始 ・令和元年7月,旧大名小学校跡地活用事業が工事着手(天神BBB認定) ・令和2年2月,「天神ビッグバン賑わい創出プロジェクトチーム」の立ち上げ ・令和2年3月,「(仮称)博多駅東 1丁目開発計画」に対し,「博多コネクティッドボーナス」の認定。 ・天神明治通り地区地下通路整備への補助

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計	293,202	
歳入	特定財源	140,000
	一般財源	153,202
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
歳出合計	505,762	17,959
歳入	特定財源	245,581 0
	一般財源	260,181 17,959

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)	
	機能更新誘導方策を始めとする様々なまちづくりの制度について周知する。(ホームページやリーフレット等の作成・更新・配布など)	周知の対象である事業者において、更新期を迎えたビルの建替え検討がなされる一環として、まちづくり検討の場ができ、当課との協議の機会が増える。	老朽化したビルが耐震性の高い先進的な業務・商業ビルへと更新されることで、新たな企業が進出する受け皿が整うとともに、九州・アジア、環境、安全安心、魅力、共働といった視点でのまちづくりが推進される。	企業の進出が促進されることで、商機拡大、雇用創出などにつながるのみならず、まちの賑わいや魅力が向上し、来街者が増加する。	
	指標の内容	実績	目標	実績	目標
	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
	目標	8	8		R 年度
制度PRのためのパンフレット配布や出前講座開催の件数	実績	30	34	10	-
	達成率	375.0%	425.0%		
エリアマネジメント組織等と当課とのまちづくり検討に係る協議回数	目標	50	50	50	R 年度
	実績	75	67		-
	達成率	150.0%	134.0%		

成果の指標(KPI)	指標の内容	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
	都心部の従業者数(単位: 万人)	目標	-	-	-	R4年度
		実績	-	-	-	40.0
		達成率	-	-	-	
	都心部の1日あたりの歩行者交通量(天神地区、博多駅地区の調査地点のうち12地点の合計(平日7時~20時))(単位: 万人)	目標	-	-	-	R4年度
	実績	-	-	-	11.3	
	達成率	-	-	-		

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	香椎・臨海東地区住宅市街地総合整備事業	
所管課	まちづくり推進室	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か アイランドシティを含む香椎・臨海東地区において、良好な住宅市街地形成を促進するため。
開始年度	2003(平成15)年度	
根拠法令	なし	
行政計画	第9次福岡市基本計画	

基本計画			施策成果指標 住んでいる住宅及び住環境に対する満足度 現状値：75.2% (2008) 2013年：現状維持(80%程度を維持) 2022年：現状維持(80%程度を維持)
施策コード	主	8-2-1	
	再	3-3-1	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		
施策	高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり		
事業群	先進的モデル都市アイランドシティのまちづくり		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか アイランドシティ(まちづくりエリア)
	対象をどのような状態にしたいのか 良質な共同住宅供給を促進することで、快適な居住環境の創出を図り、美しい住宅市街地景観が形成された、先進的モデル都市を目指す。
事業目的	

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 共同施設整備等補助 ・継続事業7件[分譲5件1,725戸・賃貸2件350戸] ・新規事業1件[分譲1件284戸]

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計	1,177,331	
歳入	特定財源	588,129
	一般財源	589,202
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
歳出合計	1,243,804	906,043
歳入	特定財源	621,394 452,820
	一般財源	622,410 453,223

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか) 民間事業者が行う共同住宅整備に係る費用の一部に対して補助金を交付する。	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか) 良質な共同住宅供給の促進	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか) 快適な居住環境が創出され、美しい市街地景観が形成される。	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか) 住環境に対する満足度の向上			
	活動の指標	指標の内容 共同住宅の供給戸数(累計)	実績		目標		
			年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
			目標	3,136	3,701		R6年度
			実績	3,136	3,701	4,249	6,344
達成率	100.0%	100.0%					
目標				R年度			
実績							
達成率							
成果の指標(KPI)	指標の内容	実績		目標			
		年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度	
		目標				R年度	
		実績					
達成率							
目標				R年度			
実績							
達成率							

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	移転に伴う西部地域のまちづくり	
所管課	計画調整課	背景 事業を始めた理由(きっかけ)は何か 九州大学の西区元岡・桑原地区への移転を契機とし、九州大学を核とした新しい学術研究都市の形成を図るもの
開始年度	平成5年度	
根拠法令	なし	
行政計画	九州大学学術研究都市構想(H13)※産学官連携で策定	

基本計画			施策成果指標 ○アイランドシティ・九州大学学術研究都市・シーサイドもち(SRP地区)の従業者数(R4年度:30,000人)
施策コード	主	8-2-2	
	再	7-6-1	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		
施策	高度な都市機能が集積した活力創造拠点づくり		
事業群	九州大学学術研究都市構想の推進		

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 九州大学伊都キャンパス周辺
	対象をどのような状態にしたいのか ・地域の学生住宅や生活利便施設、研究開発機能等が集積し、交通利便性が高まるなど、西部地域のまちづくりが進む。
事業目的	

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか
	①伊都キャンパス周辺(元岡地区等)におけるまちづくり支援
	②伊都キャンパス周辺におけるインフラ整備(道路整備・河川改修)に係る調整
	③伊都キャンパスへの交通アクセス強化に係る調整等

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計		541
歳入	特定財源	0
	一般財源	541
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30 R2
歳出合計		640 1,083
歳入	特定財源	0 0
	一般財源	640 1,083

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果、どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果、対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果、市としてどうなるのか)		
	①伊都キャンパス周辺(元岡地区等)におけるまちづくり支援 ②伊都キャンパス周辺におけるインフラ整備(道路整備・河川改修)に係る調整 ③伊都キャンパスへの交通アクセス強化に係る調整等	・地元主体のまちづくり活動により九大移転に応じた住宅供給等が行われる。 ・九大学研都市駅から伊都キャンパスまでの交通アクセスが強化され、地域の利便性が高まる。 ・九大伊都キャンパス周辺のインフラ整備が促進される。	・地域の学生住宅や生活利便施設、研究開発機能が集積し、交通利便性が高まるなど、西部地域のまちづくりが進み、人口が増加する。	・九大伊都キャンパス及びその周辺が、九州大学学術研究都市の核として、必要な居住・生活サポート機能や研究開発機能、産学連携機能が集積した拠点として形成される。		
	指標の内容	実績	目標	実績		
	活動の指標	年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
		目標	63.0%	64.0%	67.0%	R 年度
実績		62.1%	65.0%	-		
達成率		98.6%	101.6%			
目標				R 年度		
実績						
達成率						

事務事業マネジメントシート（令和元年度実施分）

事業名	福岡空港関連自動車専用道路の検討		
所管課	都市計画部 自動車専用道路担当	背景	事業を始めた理由(きっかけ)は何か
開始年度	平成27年度		<ul style="list-style-type: none"> ・都市高速道路とのアクセスや、空港周辺に主要渋滞箇所があるなど、定時性や速達性に課題があり、福岡市都市交通基本計画(平成26年度)へ位置付け ・滑走路増設に合わせ早期に取り組むことについて福岡市・福岡県・福岡北九州高速道路公社による合意(H27.3.17)
根拠法令	なし		
行政計画	福岡市都市交通基本計画(H26年度)		

基本計画			
施策コード	主	8-4-1	
	再	4-5-3	
分野別目標	国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている		
施策	成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり		
事業群	空港機能の強化、利便性向上		

施策成果指標	～R2n 道路の都市計画決定
---------------	----------------

【事業概要】

対象	誰(何)を対象として行うのか 市民(自動車利用)
事業目的	対象をどのような状態にしたいのか 空港アクセスにおける速達性・定時性を向上させるとともに、一般道の混雑緩和を図る。 【目的】 ・市南部地域や太宰府方面からの国内線ターミナルへのアクセス強化 ・国道3号空港口交差点の混雑緩和

実施内容(手段)	令和元年度、目的達成に向けてどのような方法で何を行ったのか 都市計画手続を実施 ・都市計画案の縦覧, 説明会, 市民意見聴取 環境影響評価準備書手続を実施 ・準備書の縦覧, 説明会, 市民意見聴取 ・県, 市審査会への出席 ・県知事の意見聴取 環境影響評価書手続を実施 ・国土交通大臣(環境大臣)の意見聴取 ・評価書の補正
-----------------	---

事業費(千円)		
令和元年度決算額(見込額)		
歳出合計		26,486
歳入	特定財源	4,100
	一般財源	22,386
前年度決算額・翌年度予算額		
	年度	H30
	R2	
歳出合計	70,058	0
歳入	特定財源	3,400
	一般財源	66,658

【ロジックモデル・指標の達成度】

事業フロー(ロジックモデル)	①活動アウトプット (どんな活動を行うのか)	②結果アウトプット (活動の結果, どうなるのか)	③中間アウトカム (その結果, 対象はどうなるのか)	④最終アウトカム (その結果, 市としてどうなるのか)		
	・都市計画決定に向けた手続を進める。 ・福岡北九州高速道路公社が整備主体となる有料道路事業を基本とした事業化に向けて関係機関との協議を行う。(道路下水道局)	都市計画及び環境影響評価手続が完了し、事業化の準備が整う。	有料道路事業として都市高速道路を整備。(道路下水道局)	都市高速道路の空港方面への延伸により、本市南部地域及び太宰府方面からの国内線ターミナルへのアクセスが強化される。また、国道3号空港口交差点等の空港周辺道路の混雑が緩和される。		
	活動の指標	成果の指標(KPI)				
	指標の内容	実績	目標			
		年度	H30年度	R1年度	R2年度	最終年度
	都市計画及び環境影響評価手続(手続の進捗)	目標	43%	86%	100%	R 年度
		実績	43%	86%		R2年度
		達成率	100.0%	100.0%		R 年度
		目標				R 年度
		実績				
		達成率				